

図書館だより 10月号



2学期中間考査も終わり、皆さん一息ついていることと思います。
過ごしやすい、読書にふさわしい季節になってきました。

今月10月27日から11月9日までの2週間は「読書週間」となっています。この機会に、朝読書以外にも本を手にとってみてはどうでしょうか。



〈新任の先生より〉

薬師寺 貴花 (保健体育科)

本屋に立ち寄り手に取り読む本は、大体実用書がほとんどです。そのなかでも一番驚き、感動した本は、近藤麻理恵さんの『人生がときめく片付けの魔法』です。皆さんも知っているのではないのでしょうか？ベストセラー本となり、本屋の一番目立つ場所にずら〜っと並んでいました。私は、それを手に取り、パラパラとページをめくると、その中に書かれていたのは、「片付けは、ときめくかときめかないかを判断すること」でした。また、「この方法で片づけたら、ずっときれいなままでいられる」とも……。私は、一体どういうことなのか？本当にきれいなままでいられるのか？半信半疑でしたが、とりあえずこの本を買ってみて、試してみようと思いました。

ある休日、自分の服を全てリビングにかき集め、山のようにある服をときめくか、ときめかないかを判断しながら、ときめかない服をゴミ袋に入れて、ときめく服をダンスやクローゼットにしまっていました。すると、ダンスやクローゼットにぎゅうぎゅうに詰めていた服がブティック店のようなゆとりのある収納になっていました。また、ときめかない服が入ったゴミ袋はなんと9袋！もあり、驚いてしまいました。たくさんあった衣装ケースやラックが必要なくなりました。その通りに実行してみて、こんなに感動したことはありません。家の中もすっきり、心もすっきり、気分爽快！そして、それが10年経った今でも維持できています。

「こんまりさん」、近藤麻理恵さんの片付け術は本当に魔法だと思います。



〈寄贈図書を紹介〉

『太平洋の虹橋』

帆掛け船でアメリカンドリームを追った男達

宮内保幸

河野真典

あらすじと筆者の思い

百年以上前、この箱庭のような穏やかな三瓶港の入り江から、小さな帆掛け船で太平洋の怒涛を越えアメリカへ渡った者がいたことなど、想像する人はいないだろう。彼らは嵐のために漂流したのではない。簡単な方位磁針を持ち、黄金の国の富を求めて自ら太平洋に乗り出したのだ。

彼らは、明治維新後一般庶民にまで開かれた新世界への挑戦者であった。

1914（大正3）年、「大福丸」で27名がアメリカを目指して太平洋航海に挑戦した。帆掛け船による密航である。一度目は船が故障した。愛知県三河湾の一色港に入って検挙され、彼らの夢は消え失せた。

その2か月後、愛知県から船を受け取りに來いと連絡を受けた船長の石岡正一ら8名が、同じ船で一式港に近い三重県鳥羽港から再挑戦した。彼らはアラスカのヌニバク島に漂着した。航海中1人が死亡し、上陸後1人が吹雪に巻き込まれ行方不明となった。

船長石岡は25歳。乗組員7名は西宇和郡三瓶村津布理出身17歳の宮内牧太郎ほか、18歳、19歳、28歳、35歳、39歳、41歳の同志であった。本書は、宮内牧太郎の航海記をもとに物語が進む。アラスカでの生活を含め1年4か月間の冒険は、シアトル港から横浜港に強制送還の形で到着して終了する。

彼らの挑戦は、近代日本の躍動を物語る「大冒険」として、語り継がれるべきものである。



〈月間図書貸出冊数（9月）〉

〈クラス別〉

8月30日～9月30日

1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
0冊	12冊	1冊	13冊	14冊	3冊	0冊	1冊	1冊

〈個人別〉

1位 10冊 東海林 茉莉（2-2）
2位 6冊 前田 結衣（2-1）
3位 5冊 東 悠希（1-2）